

会議録

会議の名称	平成 25 年度 第 4 回環境審議会
開催日時	平成 25 年 8 月 29 日（木曜日） 午前 10 時から正午まで
開催場所	エコプラザ西東京 講座室 1
出席者	委員：加納委員、勝村委員、井野委員、田辺委員、宮加谷委員、渡部委員、清水委員、二宮委員、伊藤委員、齋藤委員 事務局：湊みどり環境部長、清水環境保全課長、田中みどり環境部主幹、松下主事、本谷主事 傍聴人：1 名
議題	1 開会 2 議題 第 3 回環境審議会会議録の確認について （仮称）第 2 次西東京市環境基本計画の素案 その他 3 閉会
会議資料の名称	資料 1 会議録案（平成 25 年度第 3 回環境審議会会議録） 資料 2 （仮称）第 2 次西東京市環境基本計画素案(案)
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p><u>議題 1 第 3 回環境審議会会議録の確認について</u></p> <p>事務局：</p> <p>説明（資料 1 の説明）</p> <p>一同了承</p> <p><u>議題 2）（仮称）第 2 次西東京市環境基本計画の素案 について</u></p> <p>○事務局：</p> <p>説明（資料 2 の説明）</p> <p>○会長：</p> <p>資料 2、22 ページの基本方針 1「自然環境、歴史的および文化的環境資源の保全・再生を進めます」の指標及び目標について意見をいただきたい。</p>	

○宮加谷委員：

目標に用いたデータの出典を示した方がよい。

事務局：

出典の記述内容を事務局で検討する。

○渡部委員：

公園ボランティア数について、その内訳はどのようになっているのか。例えば、花を育てる会などがあり、ボランティアというのは様々な種類がある。どのようなものを指してボランティアとしているのか。

○事務局：

みどり公園課が調査し、現状を把握している数値である。詳細についてはデータの出典で示す。将来予測は現状に基づいて算出している。

○井野委員：

ある一定の大きさ以上の樹木の本数を指標に加えてはどうか。一定の大きさ以上の街路樹は記録がとられていると思う。公園の緑地面積がたとえ広くとも、貴重な樹木が切られて公園の緑地が拡大されるようでは意味がない。

○事務局：

街路樹等の樹木の太さ等のデータが十分に管理・把握されているか分からない。保存樹木については管理していると思う。

○会長：

現状把握ができていないかぎり、指標として具体的数値を設定するのは難しい。

○井野委員：

東久留米市では街路樹の数を管理していると聞いているので、不可能ではないと考えた。

伊藤委員：

保存樹木の数を指標にしてみてもどうか。保存樹木であれば現状も把握されているため、数値目標として設定可能ではないか。

事務局：

環境基本計画は環境分野の総合的な計画であり、樹木数など個別具体的な内容は分野別の計画で扱われるべきと考える。

指標として「保存樹木を何本にする」という内容を指標及び目標に入れることは難しいと考えるが、「今後減らさない」ということであれば可能であると思う。

伊藤委員：

樹林地の保全・再生が市の取り組みの一番目に掲げられている。環境という点からみて、保存樹木について言及してもよいのではないか。

事務局：

みどりの基本計画の担当部署に確認する。

渡部委員：

公園ボランティアについてだが、様々なボランティアグループが存在しており、そのボランティアの種類・定義次第では、目標値が低すぎると思われる。

会長：

ボランティアの定義については、指標の出典で記述する。

井野委員：

先ほどの樹木の話について補足だが、場所を公園と限定して樹木本数を数える、というのはどうか。緑地面積だけでは実態把握にならない。意見として参考にしていただきたい。

渡部委員：

近くの農家では家の垣根を維持管理の負担軽減という理由でブロック塀に変えた。垣根は地域の貴重な緑であるため、垣根の剪定等に対しての市からの助成件数も扱ってほしい。

会長：

資料 2、23 ページ、3「農業の保全」の項目に、環境にやさしい農業という表記があるが、どのような農業のことを指しているのか。

事務局：

減農薬等に取り組んでいる農業を指す。

会長：

資料 2、30 ページ、基本方針 2「資源の有効活用、ごみの削減を進めます」の指標及び目標

について意見をいただきたい。

齋藤委員：

「家庭ごみ原単位」とあるが、単位を記載する必要があるのではないか。

事務局：

これは家庭から排出される1人1日当たりの平均ごみ量である。単位（グラム、人・日）を示す。

齋藤委員：

資源化率とは何か。

事務局：

資源化率とは、資源排出量とごみ排出量を足したものを資源物排出量で割り戻した値ということである。資源物というのは、分別回収したものと集団回収したものとの合計である。

会長：

大雑把に言うと、集めたごみの中で資源になったものを、集めたごみの総量で割った値ということである。単位は%となっているが、重量での割合か。

事務局：

重量での割合である。

齋藤委員：

12 ページ「(2) 資源の有効活用、ごみ量の削減」のグラフにも、資源化率の値をいれてはどうか。

事務局：

検討する。

環境指標の資源化率についても、内容が分かりにくいため説明を加える。

齋藤委員：

資料2、31 ページに「0円均一ダンボール」という記述があるが、何のことか分からない市民もいるのではないだろうか。何か説明を加えた方がよいのではないか。

事務局：

可能であれば写真が挿入できるとよいと思っている。文言での説明も検討する。

渡部委員：

34 ページ、26 行目、「市民の取り組み」についてであるが、先日、生ごみ乾燥機を買いに店に行った。この機器があるとごみが軽くなって非常に便利である。しかしほとんどの店で売られていない。取り組みとして、「生ごみ乾燥機」の使用についての記述を加えてはどうか。生ごみ堆肥化機器については、堆肥化がうまくいかないという例をよく耳にする。今後も研究が必要であると思われる。

事務局：

生ごみ乾燥は非常に重要と認識している。家庭から排出されたごみの重さを見ると、水分があるのとないのとでは燃焼効率が全く異なる。生ごみ乾燥機が手に入りにくいという現状については、ごみ減量推進課に伝える。また、文言については再度検討する。

渡部委員：

生ごみ乾燥機は 6 万円かかるが、現在 4 万円の補助が西東京市から出る。その PR をしてはどうか。

井野委員：

現在、家庭ごみは収集して焼却処分である。先ほど水分を減らすことの重要性が話題に出たが、水分がある場合とない場合とのごみ焼却にかかる費用の比較など、どのくらいの差があるのかが分かればよりわかりやすいと思われる。

会長：

ごみ減量推進課に伝え、検討してほしい。

会長：

基本方針 3「安全・安心で快適な生活環境の確保を進めます」の指標及び目標について意見をいただきたい。

二宮委員：

43 ページ、「市の取り組み」に関して、東大生態調和農学機構のみどりの市民開放とあるが具体的内容が気になる。25 ページ、8 行目も同様であるが、単なる公園ではなく、教育研究施設である東大生態調和農学機構としての取り組みがわかる記述にしてほしい。修正案を作成していただき、内容を東大生態調和農学機構として確認する。

事務局：

東大生態調和農学機構に関係した表現に関しては再度全体を通して事務局で修正し、東大生態調和農学機構に確認させていただく。

田辺委員：

一般市民として思うのは、東大生態調和農学機構は公園として考えていない。いつでも立ち入ることができるわけではないというのが理由である。公園というより、本市のなかで利用できる数少ない緑という認識と思う。

二宮委員：

東大生態調和農学機構でも市民がそのように認識していることは十分承知している。施設の教育研究機関としての機能を維持しながらどれだけ市民に活用してもらえるかが重要と考えており、それが分かる文言としていただきたい。

井野委員：

3-1「大気環境基準の達成状況」に関連して、13、14 ページに光化学スモッグ注意報発令日数と河川の水質のデータが載せられているが、両者とも平成 22 年に高くなっているが原因は何か。

事務局：

平成 22 年は他の年に比べて暑い日が多かったためである。暑い日には光化学スモッグが発生しやすい。河川については、猛暑が続き水が流れないという状況が長く続いたため、水質が悪化するという現象が起きた。

田辺委員：

37 ページ、下水道への未接続世帯について接続を促すという表記があるが、下水道への未接続世帯はどの程度なのか。

事務局：

手元にデータがないため正確な数字はお示しできないが、下水道課では下水道への未接続率を課題として捉えている。

会長：

基本方針 4 の指標及び目標、市の取り組みについて意見をいただきたい。

伊藤委員：

環境マネジメントシステム認証とは具体的に何を意味しているのか。

事務局：

16 ページ下に注釈を入れている。

伊藤委員：

注釈は 44 ページにも入れた方がよい。

会長：

4-2「環境の将来像」の環境指標について、住宅用太陽光発電設備の設置数とだけあるが、数値の項目には設置数とともに発電量についても表記されている。その場合、環境指標にも発電量を記載すべきである。

事務局：

表現について改める。太陽光発電設備の設置数などに関連して、これらのデータは出典が東京電力株式会社であるため、出典も記述する。

会長：

基本方針 5 の指標及び目標について意見をいただきたい。

齋藤委員：

5-3「地域での環境保全活動に参加したことの市民の割合」の指標について、事務局から市民アンケートの結果との説明があったが、何年ごとに実施されているのか。

事務局：

アンケートは本計画策定にあたって実施したものである。昨年度以前は平成 20 年度に実施した。

5 年後の平成 30 年度にもう一度実施し、進捗状況を把握する予定である。

渡部委員：

同じく 5-3「地域での環境保全活動に参加したことの市民の割合」について、環境保全活動に参加したことの人数は時の経過に従って増加する。年数を限定する等の工夫が必要ではないか。

事務局：

環境活動に参加した延べ人数を増やしたいと考えているため、現在の表現としたい。

二宮委員：

53 ページ、「市の取り組み」の項目に、例えば②「市民に対する環境教育の充実」では、「市内の大学（教育研究機関）等と協力して」等の記載をしていただきたい。

事務局：

書き方等について検討し、修正をする。

副会長：

55 ページ 4 行目、「(仮称) 環境保全推進協議会」とあるが、これは既に設置されたのか。

事務局：

(仮称) 環境保全推進協議会は来年度設置予定である。

副会長：

6 行目に「(仮称) 環境学習・情報ネットワーク」とあるが、「仮称」という表現はそのままとするのか。名称が決まっているのであれば「仮称」は要らないのではないか。

会長：

固有名詞として表記するのが好ましくないのであれば、「環境保全に関わる推進協議会」など表現の工夫をしてはどうか。

渡部委員：

「仮称」でよいと考える。理由は、これらを設置する際、名称が変わる可能性があるからである。

会長：

市の発行する計画において、「仮称」という表現は好ましくないと思われるため、工夫していただきたい。

副会長：

前回の環境審議会で「環境保全推進協議会」の設置は決定しているため、「仮称」という表現に違和感を覚える。

事務局：

現段階において環境保全推進協議会の名称はまだ決定されておらず、今後変更の可能性があ

る。

齋藤委員：

環境保全推進協議会という表現が頻発する。固有名詞にしておかないと、これら全てを変更することになり読みづらい。一旦の処置として、「仮称」を取り除き固有名詞のまま記載し、発行の際に名前を変えるようであればその時に名称変更をしてはどうか。

事務局：

「仮称」を含んだ語彙の表現方法について再度協議する。学習ネットワークについては固有名詞でない表現に変更する。環境保全推進協議会についてはある程度地了解がとれているため、他のページとの整合性も考えながら調整する。

会長：

全体を通して質問、意見をいただきたい。

齋藤委員：

本計画の目次について、今回の計画は第7章までが本編と考えてよいか。

事務局：

本計画は7章で構成する。巻末の用語集等については今後検討する。

伊藤委員：

用語集についてだが、本計画は非常にカタカナを用いた表現が多い。例えばユニバーサルデザインタクシーなど、それを必要とする人が本当にこの名前で理解することができるのか疑問である。十分な理解ができるように説明を加えるなどの工夫が必要である。

田辺委員：

10ページにある「東伏見公園」についてだが、親水公園とは具体的にどのようなものなのか。親水公園にも様々な形態があり、この用語から一般人が想像するものと現実のものとの違いはないか。

東京都の事業であるが、西東京市のエリアを使用する事業である。西東京市も事態を積極的に把握し、公表等したほうがいいのではないか。

渡部委員：

担当課に行けば整備等の情報は手に入ると思われる。親水化の計画がすでに決定されているようであれば、予定という形で本計画に記載してもよいのではないか。

事務局：

東京都のほうからパンフレットが発行されている。具体的内容であれば、東京都と連携している部署（みどり公園課、下水課など）で個別に情報提供が可能である。その図面を環境基本計画で示すかどうかは判断が難しい。

興味のある方はみどり公園課など、個別に窓口にお問い合わせいただいている。

井野委員：

12 ページ 10 行目、小型家電リサイクルについて。「実施しています」という表記になっているが、先日インターネットで確認したときは「予定」であった。

事務局：

10 月 1 日から実施するため、パブリックコメント時には実施している。

副会長：

7 ページ、西東京市内の河川・水路の位置図が載せられているが、現在、暗渠となっている白子川の位置を示す必要性はあるのだろうか。また、石神井川や玉川上水と対等に扱ってよいものか。

会長：

巻末に西東京市の環境関連施設、河川や公園などの位置をまとめて示してはどうか。

渡部委員：

新川、白子川、田柄川、については行政上、水路に分類されているため位置図はあってもよいと思う。

14 ページ、河川の水質のグラフのうち、新川は現在水は流れていない。水が流れない限り水質は測れない。どうやって測ったのか疑問である。

新川、白子川、田柄川がどのように続いているのかが分かる図としてほしい。

会長：

河川の位置図は本編ではいらぬのではないか。

副会長：

同感である。

渡部委員：

昔から居住している人はこれらの水路を認識している。また、大水の時は水が流れる。これから蓋を開ければ、親水・水質改善の意識が芽生える可能性がある。本件は西東京市の親水という課題の鍵を握っているのではないか。

会長：

事務局のほうで河川の位置図の掲載の有無と場所について検討してほしい。

副会長：

事務局が検討する際に、本計画は西東京市の環境基本計画であるということを再認識してほしい。希望やイメージを本計画に入れるべきではない。

齋藤委員：

9 ページ、産業別の従業員数の割合の図があるが、図によると平成 22 年は第三次産業が 80% 以上を占めている。しかし文章では 70% 以上と記載されている。80% 以上へと修正してはどうか。

16 ページ注釈について、ISO14001 の記述の内容が不十分である。国際基準であり、認証登録制度である、ということが ISO14001 のポイントである。

エコアクション 21 の説明に、環境省が推奨していることを記述すべきである。

エコステージの説明に EMS という表記があるが、これで理解できる人は少ないので表現を修正してはどうか。

グリーン経営認証登録の説明にある「頂く」という表現は不適切である。

56 ページ、重点プロジェクトの推進体制・進捗管理体制の図だが、各主体の大きさにばらつきがあり全体として見た目が綺麗ではない。

事務局：

ご指摘を踏まえ、修正する。

議題 4 その他

事務局：

環境保全推進会議の設置にあたり、市民・他の団体に呼びかけ、説明会等を実施し、重点プロジェクトでの取り組み等を募集した。

重点プロジェクト 1 に関わる施策案として 42 件、環境重点プロジェクト 3 に関わるものは 5 件あった。重点プロジェクト 1 については多数の施策案が応募されたため、担当課と調整している。担当課と調整がつき次第開催する。

今回のご指摘に基づいて素案を修正し、11 月にパブリックコメントを実施する予定である。

素案の検討が環境審議会で再度必要ということになれば、10月11日（金）午後2時から開催する。

3 閉会

会長：

本日の環境審議会は以上で終了する。

以上